

表紙

あおもり  
**青森りんご**  
ひんしゅ  
**品種**  
あんきちょう  
**暗記帳**

**青森りんごの収穫期分類**

極早生種(ぐくわせしゅ) ~8月20日ごろ収穫  
早生種(わせしゅ) ~9月20日ごろ収穫  
中生種(ちゅうせいしゅ) ~10月20日ごろ収穫  
晩生種(ばんせいしゅ) 10月20日以降収穫

※ 収穫時期の分類は、青森県での栽培の場合です。

裏表紙

なんしゅるい  
何種類おぼえた?

※ 一般の方が分かりやすいように、正式な品種登録名ではなく、実際に販売される際の名称(商標名等)を記載しているものがあります。



**あかね**



**早生種** 紅玉 × ウースターペアメン

小ぶりな品種で果肉は乳白色。味は「紅玉」よりも淡泊で、酸っぱい。「紅玉」よりも1か月ほど早く収穫できる。

**秋映 (あきばえ)**



**中生種** 千秋 × つがる

果皮は暗めの赤色で、完熟したものは黒みを帯びた赤色に。果汁が多く硬めの果肉で、甘みの中に程よい酸味。香りもある。

**アーリージョナ**



**中生種** ジョナゴールドの枝変わり

「ジョナゴールド」と同じような食味で爽やかな酸味が特徴。収穫時期は「ジョナゴールド」よりやや早め。

**安祈世 (あきよ)**



**中生種** 千秋 × ふじ

果肉は黄色っぽく、やや硬め。果汁は多めで甘み、酸味ともある。香りはあまりない。

**あいかの香り (あいかのかおり)**



**晩生種** ふじ × つがる

大玉品種。果肉はやや硬め。糖度が高めで酸味が少なく、甘さが引き立つ。蜜が入りやすい。

**旭 (あさひ)**



**中生種** 偶発実生から発見

日本では西洋りんごが紹介された明治初期から栽培されている。「旭」は日本での名称で、元々の名前は「マッキントッシュ」。

**あおり9(彩香) (あおりきゅう(さいか))**



**中生種** あかね × 王林

果肉は白っぽく、やや硬めで歯ごたえがあり、生食で食べるのに丁度よい爽やかな甘酸っぱさ。※令和7年10月27日までは「彩香」の名称で販売。

**アルプス乙女 (あるぷすおとめ)**



**中生種** ふじ × ヒメリンゴ

主に料理や観賞用として使われている。小さいが、甘さ酸味もしっかりあり、生で食べても美味しい。

<p style="text-align: center;"><b>アンビシャス</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○</div>  <div style="text-align: center;">○</div> </div>	<p><b>晩生種</b> 東光の自然交雑実生より選抜</p> <p>果肉は硬めでシャキシャキとした歯ごたえ。酸味はほとんど感じず、甘みが強い。</p> <div style="text-align: right;">○</div>	<p style="text-align: center;"><b>華宝 (かほう)</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○</div>  <div style="text-align: center;">○</div> </div>	<p><b>中生種</b> シナノスイートの実生</p> <p>2019年登録の新品種。果肉は「シナノスイート」よりち密でクリスピー。酸味は弱く、甘いりんごで、爽やかな香りがある。</p> <div style="text-align: right;">○</div>
<p style="text-align: center;"><b>祝 (いわい)</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○</div>  <div style="text-align: center;">○</div> </div>	<p><b>極早生種</b></p> <p>青森県では明治時代から栽培されていて、明治時代の青森県りんご7大品種の一つ。お盆のお供え物用などにも使われる。</p> <div style="text-align: right;">○</div>	<p style="text-align: center;"><b>かんき</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○</div>  <div style="text-align: center;">○</div> </div>	<p><b>早生種</b> 千秋 × つがる</p> <p>果汁が多く、甘味、酸味ともに中程度。渋味はなく、程よい香りがある。産地では「冠輝」とも書く。</p> <div style="text-align: right;">○</div>
<p style="text-align: center;"><b>印度 (いんど)</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○</div>  <div style="text-align: center;">○</div> </div>	<p><b>晩生種</b></p> <p>明治初年に青森県弘前市で誕生した品種。昔は高級りんごとして出回った。果汁は多くなく、酸味はほぼ感じない甘いりんご。 ※画像は有袋栽培</p> <div style="text-align: right;">○</div>	<p style="text-align: center;"><b>きおう</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○</div>  <div style="text-align: center;">○</div> </div>	<p><b>早生種</b> 王林 × 千秋</p> <p>歯ごたえがあり、果汁が多い。さっぱりとした甘さに酸味もある。青森県で栽培されている早生品種の中では「つがる」の次に生産量が多い。</p> <div style="text-align: right;">○</div>
<p style="text-align: center;"><b>おいらせ</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○</div>  <div style="text-align: center;">○</div> </div>	<p><b>中生種</b> スターキングデリシャス × つがる</p> <p>果皮色は「スターキングデリシャス」に似ているが、スターキングより丸みのあるフォルム。蜜が霜降り肉のように細かく入りやすく、甘味と香りが強い。</p> <div style="text-align: right;">○</div>	<p style="text-align: center;"><b>北紅 (きたくれない)</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○</div>  <div style="text-align: center;">○</div> </div>	<p><b>中生種</b> リチャードデリシャス × つがる</p> <p>完熟すると蜜が多く入りやすく、やや硬めできめ細やかな果肉は果汁が多く、歯ざわりが良く甘い。香りもある。</p> <div style="text-align: right;">○</div>
<p style="text-align: center;"><b>王林 (おうりん)</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○</div>  <div style="text-align: center;">○</div> </div>	<p><b>晩生種</b> ゴールデンデリシャス × 印度</p> <p>果肉はきめ細やか。甘く、独特の芳香がある。黄色系りんごでは国内で最も生産量が多い。</p> <div style="text-align: right;">○</div>	<p style="text-align: center;"><b>きみと</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○</div>  <div style="text-align: center;">○</div> </div>	<p><b>晩生種</b> ふじ × 東光</p> <p>弘前大学が育成したりんごで、果肉は硬めで蜜が多く入りやすく、さわやかな甘みが特徴。</p> <div style="text-align: right;">○</div>

<p><b>金星</b> (きんせい)</p> 	<p><b>晩生種</b> ゴールデンデリシャス × デリシャス</p> <p>上品で華やかな香りがあり、甘い。青森県では、袋をかけて育てる「有袋栽培」が多い。(有袋栽培ではクリーム色のなめらかな果皮となる)</p>	<p><b>黄輝</b> (こうき)</p> 	<p><b>中生種</b> ひろさきふじの枝変わり</p> <p>「早生ふじ」(わせふじ)に分類されている「ひろさきふじ」の枝変わり。「ひろさきふじ」よりも酸味控えめ。</p>
<p><b>グラニースミス</b></p> 	<p><b>晩生種</b> 自然交雑</p> <p>欧米ではおなじみのりんご。酸味が強いいため、アップルパイなどの加工用に向いている。</p>	<p><b>紅玉</b> (こうぎよく)</p> 	<p><b>中生種</b> 自然交雑実生</p> <p>お菓子作りなど加工向けに最適。小ぶりで甘酸っぱい。日本では西洋りんごが入ってきた明治時代から栽培されている。</p>
<p><b>紅の夢</b> (くれないのゆめ)</p> 	<p><b>晩生種</b> 紅玉 × 赤肉親系統1</p> <p>果皮の色は無袋栽培では濃い暗赤色、有袋栽培では紅色に近い明るめの色になる。果肉はち密で酸味があるが、生食でも食べられる。</p>	<p><b>紅月</b> (こうげつ)</p> 	<p><b>中生種</b> ゴールデンデリシャス × 紅玉</p> <p>きめ細やかで白っぽい果肉。酸味は少なく甘さが強く、良い香りがある。</p>
<p><b>ぐんま名月</b> (ぐんまめいげつ)</p> 	<p><b>晩生種</b> あかぎ × ふじ</p> <p>甘みがあり、蜜が多く入りやすい黄色りんご。日の当たる面が淡い紅色になる。</p>	<p><b>こうこう</b></p> 	<p><b>晩生種</b> 弘大1号 × ふじ</p> <p>果肉はパリッとして硬めで歯ごたえが良く、蜜が多く入りやすい。酸味は弱く、濃厚な強い甘み。</p>
<p><b>恋空</b> (こいぞら)</p> 	<p><b>極早生種</b> 67-45 × 夏緑</p> <p>果汁が多く、華やかな甘さ。青森県産の夏りんご(極早生種)の中では一番生産量が多い。</p>	<p><b>幸寿</b> (こうじゅ)</p> 	<p><b>中生種</b> 未希ライフ × (千秋 × ふじ)</p> <p>果肉はやや黄色っぽく、適度な硬さと歯ごたえがある。甘みが強いが、酸味もある。</p>

<p>こうとく</p> 	<p><b>晩生種</b> ロム16 × ふじ</p> <p>果汁豊富で歯ざわりが良く、蜜が極めて多く入る。食べると蜜果特有のトロピカルな香りが広がり、「パイナップルのような味」と表現する人もいる。</p>	<p>ゴールデンデリシャス</p> 	<p><b>晩生種</b> Grimes Goldenの自然交雑実生</p> <p>日本での栽培は少ないが、世界的に見ると、生産量の多い品種。甘さの中に酸味も感じる。</p>
<p>黄明 (こうめい)</p> 	<p><b>早生種</b> 未希ライフ × 千秋</p> <p>果肉は黄色っぱく、食味は甘酸適和。弘果弘前中央青果が専用利用権を設定する「つがりあんアップル」の一つ。</p>	<p>さんさ</p> 	<p><b>早生種</b> ガラ × あかね</p> <p>果肉はきめ細やかで白っぽい。果汁が多く、適度な酸味があってさっぱりとした甘さ。</p>
<p>昂林 (こうりん)</p> 	<p><b>中生種</b> ふじのアボミクスまたは枝変わり</p> <p>「早生ふじ」(わせふじ)と呼ばれる「ふじ」の早熟系統の代表的な品種の一つ。基本的な食味は「ふじ」に似ている。蜜が入ることもある。</p>	<p>サンふじ</p> 	<p><b>晩生種</b> 国光 × デリシャス</p> <p>青森県産りんごの約半分を占める「ふじ」の無袋栽培。蜜が入りやすく、甘み、酸味、食感、貯蔵性の高さなど全て揃ったりんごの王様。</p>
<p>黄金ふじ (こがねふじ)</p> 	<p><b>晩生種</b> ふじの枝変わり</p> <p>普通の「ふじ」と同様に蜜が入って美味しいりんご。</p>	<p>しおりの詩 (しおりのうた)</p> 	<p><b>極早生種</b> 北の幸 × ジャージーマック</p> <p>極早生種(ごくわせしゅ)としては大玉で、夏りんごらしいさっぱりとした酸味がある。</p>
<p>国光 (こっこう)</p> 	<p><b>晩生種</b></p> <p>日本では西洋りんごが紹介された明治初期から栽培されている。かつて長き渡り青森りんごの主力品種だった。貯蔵性があり、さっぱりとした食味。 ※画像は有袋栽培</p>	<p>シナノゴールド</p> 	<p><b>晩生種</b> ゴールデンデリシャス × 千秋</p> <p>果肉は硬め。糖度、酸度ともに高く、濃厚な味。貯蔵性に優れているため、青森県産の多くは春～夏に出荷される。</p>



<p>シナノスイート</p> 	<p><b>中生種</b> ふじ × つがる</p> <p>名前どおりのスイートなりんご。果汁が多く、サクサクとクリスピーな食感。</p>	<p>秋陽 (しゅうよう)</p> 	<p><b>中生種</b> 陽光 × 千秋</p> <p>果肉が硬く、強い甘みの中に酸味も効いている。</p>
<p>シナドルチェ</p> 	<p><b>中生種</b> ゴールデンデリシャス × 千秋</p> <p>果肉はやや粗めで、パリッとした歯ごたえ。適度な甘さと酸味で香りもある。</p>	<p>ジョナゴールド</p> 	<p><b>中生種</b> ゴールデンデリシャス × 紅玉</p> <p>果肉はきめ細やかで、生食に適した甘酸っぱさ。青森県では長期貯蔵に適した有袋栽培のものが多く、夏まで販売される。</p>
<p>シナピッコロ</p> 	<p><b>早生種</b> ゴールデンデリシャス × あかね</p> <p>小玉で丸かじりに適したサイズ。果肉の硬さは中程度で果汁が多く甘酸適和。</p>	<p>新世界 (しんせかい)</p> 	<p><b>晩生種</b> ふじ × あかぎ</p> <p>酸味は弱く甘いりんごで、熟したものは蜜が多く入りやすい。</p>
<p>シナレッド</p> 	<p><b>早生種</b> つがる × ビスタベラ</p> <p>果肉は硬めできめ細やか。果汁が多く酸味が強いりんご。</p>	<p>スイートメロディ</p> 	<p><b>早生種</b> 千秋 × つがる</p> <p>果汁が多めで歯ざわりがよく、甘さの中に適度な酸味もある。</p>
<p>春明21 (しゅんめいにじゅういち)</p> 	<p><b>晩生種</b> ふじ × レイ8</p> <p>果肉がとて硬く、手に持つとずっしり重量感がある。糖度が高いりんごだが、収穫時は酸度も高いため甘酸っぱい濃厚な味わい。長期貯蔵後は甘酸適和に。</p>	<p>スターキングデリシャス</p> 	<p><b>中生種</b> デリシャスの枝変わり</p> <p>独特の強い芳香がある甘いりんご。熟したものは蜜が多く入る。青森県では、昭和40年代後半から50年代まで一時は主力品種になるほど一世を風靡した。</p>

<p>スタークジャンボ</p> 	<p><b>中生種</b> イブズデライトの枝変わり</p> <p>「世界一」よりも大きくなる品種で、青森県内では主に「絵文字りんご」にするために栽培されている。食味は甘さ控えめで爽やかな酸味がある。</p>	<p>千雪 (ちゆき)</p> 	<p><b>中生種</b> 金星 × マヘ7</p> <p>酸味がなく、上品な甘さで芳醇な香りがある。最大の特長は、果肉をすりおろしても茶色く褐変しないこと。 ※国際特許取得済</p>
<p>青林 (せいりん)</p> 	<p><b>晩生種</b> レッドゴールド × ふじ</p> <p>歯触りが良く、酸度の低い、甘いりんご。</p>	<p>つがる</p> 	<p><b>早生種</b> ゴールデンデリシャス × 紅玉</p> <p>酸味が無く優しい甘さ。果肉はきめ細やかで果汁が多い。国産りんごの中では「ふじ」に次いで生産量が多い。</p>
<p>世界一 (せかいいち)</p> 	<p><b>中生種</b> デリシャス × ゴールデンデリシャス</p> <p>名前どおりの大きなりんごで、さっぱりした食べやすい甘さ。</p>	<p>津軽ゴールド (つがるごーど)</p> 	<p><b>中生種</b> 千秋 × 玉林</p> <p>弘果弘前中央青果が専用利用権を設定している「つがりあんアップル」の一つ。</p>
<p>千秋 (せんしゅう)</p> 	<p><b>中生種</b> 東光 × ふじ</p> <p>皮が薄く、果肉はきめ細やか。歯ざわりが良く、甘みと酸味のバランスがとれたりんご。</p>	<p>つがる姫 (つがるひめ)</p> 	<p><b>早生種</b> つがるの着色系枝変わり</p> <p>一般的な「つがる」よりも1週間ほど早く収穫でき、色付きが良い。他にも「つがる」の枝変わり品種には、「ひらかつがる」「みすずつがる」「芳明つがる」などがある。</p>
<p>大紅栄 (だいがうえい)</p> 	<p><b>晩生種</b> 未希ライフ × 不明</p> <p>白っぽい果肉で、酸味が弱いため甘さを強く感じる。大玉で濃紅色の果皮は高級感があり、青森りんごの輸出国では贈答用として人気。</p>	<p>トキ</p> 	<p><b>中生種</b> 玉林 × ふじ</p> <p>両親(「玉林」と「ふじ」)の良いところを受け継ぎ、歯ごたえが良くてジューシー。甘みが強く、糖度が高い。</p>

<p>夏緑 (なつみどり)</p> 	<p><b>極早生種</b> きたかみ × メク10</p> <p>青森県産は早いものでは8月上旬のねぶた祭りの頃には店頭に並び始める。暑い日にぴったりの爽やかな食味。</p>	<p>弘大みさき (ひろだいまさき)</p> 	<p><b>中生種</b> ゴールデンデリシャス × 弘大1号</p> <p>香りが良く、甘酸適和の爽やかな食味。</p>
<p>はつ恋ぐりん (はつこいぐりん)</p> 	<p><b>中生種</b> グラニースミス × レイ8</p> <p>果肉は硬めで、緑色の外観が特徴的。濃厚な甘酸っぱさ。国内で育成された品種として初めてクラブ制を導入しており、「はつ恋ぐりんの会」の会員のみ栽培することができる。</p>	<p>ファーストレディ</p> 	<p><b>早生種</b> さんさ × つがる</p> <p>食味は甘酸適和。早生りんごの中では果肉が硬く、歯ざわりが良いりんご。</p>
<p>花祝 (はないわい)</p> 	<p><b>極早生種</b> 花嫁 × 祝</p> <p>もともとは緑色のりんごだが、青森県では袋を掛けて栽培することで美しい紅色の果皮に仕上げるのが一般的。</p>	<p>ふじ</p> 	<p><b>晩生種</b> 国光 × デリシャス</p> <p>「ふじ」に袋をかけて栽培したもので、「有袋ふじ」とも呼ばれる。「サンふじ」よりも果皮が明るめの紅色。貯蔵性に優れているため、春～夏に主に販売される。</p>
<p>はるか</p> 	<p><b>晩生種</b> ゴールデンデリシャス × スターキングデリシャス</p> <p>現在国内で一般流通されている品種の中ではトップクラスの糖度の高さ。蜜が入り、果汁が多くて強い甘み。</p>	<p>紅夏 (べにか)</p> 	<p><b>早生種</b> 未希ライフの自然交雑実生 ※遺伝子解析では花粉親は夏緑</p> <p>弘果弘前中央青果が専用利用権を設定している「つがりあんアップル」の一つ。爽やかな食味の夏りんご。</p>
<p>ひろさきふじ</p> 	<p><b>中生種</b> ふじの枝変わり</p> <p>「早生ふじ」の総称で呼ばれる「ふじ」の早熟系統のうち、一番生産量が多い品種。基本的な食味は「ふじ」に似ていて蜜が入るものもあるが、「ふじ」よりもやや果肉は軟らかめで、酸味は控えめのさっぱりした甘さ。</p>	<p>紅紋 (べにしぼり)</p> 	<p><b>晩生種</b></p> <p>小ぶりで真っ赤な果皮、果肉は真っ白。明治時代の青森県りんご7大品種の一つで、昔は広く栽培されていた。青森県つがる市にある、日本最古の西洋りんごの樹3本のうち、2本は「紅紋」。</p>

<p><b>紅将軍</b> (べにしょうぐん)</p> 	<p><b>中生種</b> やたかの枝変わり</p> <p>「早生ふじ」(わせふじ)と呼ばれる「ふじ」の早熟系統の代表的な品種の一つ。基本的な食味は「ふじ」に似ている。</p>	<p><b>美丘</b> (みおか)</p> 	<p><b>晩生種</b> ふじ × (王林と世界一)</p> <p>果汁が多く、硬くて粗めの果肉。サクサクとした歯ごたえで酸味控えめの甘いりんご。</p>
<p><b>紅はつみ</b> (べにはつみ)</p> 	<p><b>早生種</b> つがる × さんさ</p> <p>2018年に登録された新品種。着色が良く、早生りんごの中では糖度・酸度ともに高めのため、味が濃厚。</p>	<p><b>未希ライフ</b> (みきらいふ)</p> 	<p><b>早生種</b> 千秋 × つがる</p> <p>果肉はやや硬めで歯触りがよく、果汁もあってさっぱりとした甘さ。</p>
<p><b>北斗</b> (ほくと)</p> 	<p><b>中生種</b> ふじ × 不明</p> <p>甘酸適和で食味良好。蜜が入りやすく、果肉はきめ細やかで果汁が豊富。</p>	<p><b>美紅</b> (みく)</p> 	<p><b>晩生種</b> 東光 × 赤肉親系統1</p> <p>果肉が赤いりんご。赤果肉系は酸味が強いものが多いが、この品種は酸度が「ふじ」と同じくらいのため、酸っぱいりんごが苦手な方でも生食で美味しく食べられる。</p>
<p><b>星の金貨</b> (ほしのきんか)</p> 	<p><b>晩生種</b> ふじ × 青り3号</p> <p>糖度が高く、甘い。皮がとても薄いので丸かじりにも最適。貯蔵性に優れている。</p>	<p><b>みよしレッド</b></p> 	<p><b>早生種</b> さんさの自然交雑実生から育成</p> <p>白っぽい果肉で、爽やかな食味。</p>
<p><b>ほのか</b></p> 	<p><b>中生種</b> ひろさきふじの枝変わり</p> <p>「早生ふじ」(わせふじ)と呼ばれる「ふじ」の早熟系統の品種の一つ。基本的な食味は「ふじ」に似ている。</p>	<p><b>陸奥</b> (むつ)</p> 	<p><b>中生種</b> ゴールデンデリシャス × 印度</p> <p>香り高い高級品種。青森県では袋をかけて栽培する有袋栽培(ピンク色)が多い。無袋栽培のものは「サン陸奥」と呼ばれ、果皮は黄緑色っぽくなる。</p>



<p>○ <b>明秋</b> (めいしゅう)</p> 	<p><b>中生種</b> ふじ × 大紅栄</p> <p>2018年に登録された新品種。硬めの果肉で強い甘さの中に酸味も感じる。貯蔵性にも優れている。</p> <p>○</p>	<p>○ <b>4-23</b> (よんのにじゅうさん)</p> 	<p><b>晩生種</b> ふじ × マヘ7</p> <p>不思議な名前は、新品種を作るための選抜過程の個体番号。酸味が無く上品な甘さで独特な風味がある。正式に品種登録されるまでに至らなかったため、番号のまま呼ばれている。</p> <p>○</p>
<p>○ <b>メルシー</b></p> 	<p><b>極早生種</b> シナレッドの実生から選抜</p> <p>極早生種(ごくわせしゅ)の中では味が濃厚で、甘さと酸味のバランスの良いりんご。熟したものは果皮がレモンイエローに近い色になる。</p> <p>○</p>	<p>○ <b>涼香の季節</b> (りょうかのきせつ)</p> 	<p><b>中生種</b> ふじのアポミクスまたは枝変わり</p> <p>「早生ふじ」(わせふじ)と呼ばれる「ふじ」の早熟系統の品種の一つ。基本的な食味は「ふじ」に似ていて甘酸適和。</p> <p>○</p>
<p>○ <b>もりのかがやき</b></p> 	<p><b>中生種</b> つがる × ガラ</p> <p>歯ざわりが良くて果汁が多く、香りも良いりんご。糖度が高く酸度が低いため、強い甘さを感じる。</p> <p>○</p>	<p>○ <b>ルビースイート</b></p> 	<p><b>中生種</b> ふじの交雑実生から育成</p> <p>赤果肉品種で、果肉がやや軟らかめ。適度な甘さで酸味は弱く食べやすい食味。</p> <p>○</p>
<p>○ <b>やたか</b></p> 	<p><b>中生種</b> ふじの枝変わり</p> <p>「早生ふじ」(わせふじ)と呼ばれる「ふじ」の早熟系統の品種の一つ。基本的な食味は「ふじ」に似ているが、酸味は控えめ。</p> <p>○</p>	<p>○ <b>レッドゴールド</b></p> 	<p><b>中生種</b> ゴールデンデリシャス × リチャードデリシャス</p> <p>甘味が強い。果皮の色が暗赤色になったものは蜜が多く入る。</p> <p>○</p>
<p>○ <b>陽光</b> (ようこう)</p> 	<p><b>中生種</b> ゴールデンデリシャス × 不明</p> <p>白っぽい果肉で甘みと酸味のバランスが良いりんご。</p> <p>○</p>	<p>○ <b>ローズパール</b></p> 	<p><b>中生種</b> ふじ × ピンクパール</p> <p>「ローズパール」の名前は、親品種「ピンクパール」の名称と果肉が淡い赤色をしていることから薔薇にちなんで命名された。赤果肉系品種としては酸味が穏やか。</p> <p>○</p>